

第五講 「普通と普通じゃない」言葉

「普通」は平均的だったり、ありふれていたり、並んでいたりするイメージ

「普通じゃない」は平均より突き抜けているイメージ

※普通じゃないは、普通じゃないほど＋・－となることがある！

普通系

なべて・・・一般に・全て・並み一通り・平凡・一面に

なのめ・・・ありふれたさま・いかげんな・平凡なさま

なのめなり・・・「なのめ」に同じ

おぼろけ・・・普通・並み一通り ※多く打消しを伴う

例の・・・いつもの・普通の・いつものように

※「おぼろけ」や「なのめ」は打消しを伴わずに「普通じゃない」の意味で用いることがある！

普通じゃない系

なべてならず・・・並み一通りでない・普通でない・格別だ

なのめならず・・・並み一通りでない・格別である

おぼろけならず・・・並み一通りでない・普通ではない

例ならず・・・普段とは異なる・病気である（普段の健康の様子でないイメージ）

Ex. おぼろけの願ねがひによりてにやあらむ風も吹かず、よき日出で来て

訳 並み一通りでない祈願によってであろうか風も吹かず、よい天候になったので

雪のいと高う降りたるを れいならず御格子まゐりて

訳 雪がたいそう高く降り積もっているのに いつもどちがって御格子をお下げ申しあげて

まとめて覚える単語

「困」

①「こうず」困ず(サ変)

「悩む・苦しむ・困る・くたびれる・病になる
体が重くなる」

※同音に「藁ず(サ変)」があり、「死ぬ」の
尊敬語で「お亡くなりになる」の意

②まどふ「惑ふ」(ハ行四段)

「心が乱れる・あれこれ思い悩む・迷う
さ迷う・あわてる」

※動詞の連用形について「ひどくする」の意
にもなる

③わづらふ「煩ふ」(ハ行四段)

「あれこれ気を使って苦しむ・悩む・苦勞する
★病気になる」

※補助動詞の「わづらふ(ハ行四段)」は動詞の
連用形につき、「ししかねる」の意となる。

「あぢきな」

④あぢきなし(形ク)

「正常でなく乱れている・不当だ・かいが無い
無益だ・面白くない・苦々しい・情けない」

※望ましい結果を得ることができずに諦める
感じなのさ

⑤あへなし「敢へ無し」(形ク)

「はりあいが無い・かいが無い・期待外れだ
どうにもしようがない・もろい・見るも無惨」

※あえてやってみただけダメだった感じだね

⑥よしなし「由無し」(形ク)

「理由がない・手段がない・関係がない
無用だ・無益だ。かいが無い・つまらない」

※理由の「由」に「無い」がついたから、根拠
やら理由に納得できず不満な感じですよ

⑦あいなし・あひなし(形ク)

「気に入らない・困ったことだ・つまらない」

※愛の無い相手と付き合ってもつまらない！

例文

①日々に責められこうじて

↓毎日のように責められ困って

※小松の大臣こうぜられぬ

↓小松の内大臣がお亡くなりになられた

②酒宴ことさめていかはせんとまどひけり

↓酒宴は興がさめてどうしようかと途方に
くれた

※年頃荒れまどふを思ひ出でて

↓長年ほどく荒れているのを思いだして

③にはかにわづらふ人のあるに験者求めるに

↓急に病気で苦しむ人がいるときに、修験者
を探したところ

※いかにして過ぎにしかたを過ぐししけむ
暮らしわづらふ昨日今日かな

↓一体どのようにして過去の月日を過ごした
のだろう、一日を送りかねる昨今だなあ

④天の下にもあぢきのう人のもて悩みぐさ
なりて

↓世間でも苦々しく、人々の悩みの種となつて

⑤あへなく心ほそければうちひそみぬかし

↓どうしようもなく心細いので泣きつ面
なつてしまうものだよ

⑥天道もこれをぞめぐみ給ふらん。よしなきこ
となわびそ

↓天の神もこうした人をお恵みになるであろ
う。根拠のないことをくよくよ思い悩むな。

※「なくそ」で禁止の意を示す

⑥では「よしなきことなわびそ」

⑦世に語り伝ふることまことにあいなきにや、
多くは虚言(そらごと)なり

↓世間で語り伝えることは事実では面白味
がないのだろうか、多くはみな作り話である